

令和 4 年度 東京都立東大和南高等学校 学校経営報告

校長 川瀬 徹

はじめに 本年度学校経営における「成果・問題点・今後の姿勢」は以下の通りである。

「教育活動の成果」

- 生徒・保護者はともに授業・部活動・学校行事の満足度 80%以上である。
- 「本校生徒は明るくのびのびしている」と生徒自身・保護者・教職員ともに認めている。

「問題点」

- ルール・マナー遵守の大切さについて一部の生徒及び多くの保護者から十分な理解が得られていない。
- 進路指導について満足度は低くないものの、保護者への情報提供（三者面談や保護者向け進路ガイダンスの充実）を求める声が保護者の 30%以上からあげられている。

「令和 5 年度以降に向けての姿勢」

- 価値観が多様化する中では、むしろ一定の社会規範意識が求められる場面があるため、将来に向けてルールやマナーを指導する必要があることについて、生徒はもちろん保護者からも十分に理解されるよう、工夫と努力を重ねる。
- 三者面談や保護者に向け進路情報を提供する機会の拡充を図り、保護者の学校満足度を高める。

今年度の取組状況と達成状況自己評価

達成状況	A : 高い水準を達成	B : 目標水準を達成あるいはほぼ達成
	C : 目標水準へ一歩	D : 抜本的工夫が必要

令和 4 年度 of 取組について

I 学習指導（学びの基盤を固める）

1 進学充実校として、「考えさせる授業」「知的好奇心を引き出す授業」を工夫する。

- ・教育課程委員会での検討に基づき観点別評価（1 学年については 3 観点）の改善を図った。
- ・人間と社会や総合的な探究の時間を通じて「対話的で深い学び」を実現できるように取り組んだ。

【評価】 B

2 学カスタンダードに基づいて、教科指導のマネジメントを定着する。

- ・「授業で勝負」「教養で勝負」を掲げて積極的に学習内容の定着に取り組んだ。
- ・教職員は本校スクール・ミッションを念頭に教育活動を実施したが、保護者の教育目標認知度は 60%にとどまった。
- ・学校評価アンケートで生徒の授業満足度は約 90%であった。

【評価】 B

3 「未来の東京」戦略（令和 3 年 3 月策定）等に基づく DX 化推進に取り組む。

- ・Teams を活用するなど、コロナ禍の遠隔授業等の対応を確実に行った。
- ・特に 1 学年においては一人 1 台端末の活用に努めた。

【評価】 A

4 学習に対する集中力を養い、受験に対する意識を高める。

- ・1 学年においては一人 1 台端末、2 学年においては ICT 端末を活用した主体的・対話的で深い学習を推進し、教育課程委員会や教科主任会等を通じ授業の取り組みの情報交換を行った。

- ・全学年で年2回生徒の生活実態調査を実施し、その結果を面談等で活用することで、進学意識を喚起した。
- ・2学年では難関大学等への進学を希望する生徒を対象にスタディ・キャンプ実施した。
- ・相互授業参観を年2回実施した。

【評価】 B

5 計画的かつ継続的家庭学習習慣等、自学自習の習慣化と充実を図る。

- ・生徒は学年が上がるごとに家庭学習の意識が高まっているが、保護者の50%以上は、わが子が予習・復習や宿題等に毎日取り組んでいるとは感じていない。
- ・効率的な準備や練習を通して、部活動時間の制限を設け、下校時刻遵守に取り組んだ。
- ・自習室に加え、自習室から職員室までにせっちした自習コーナーの活用を推奨した。3年生の受験勉強、6・2年生の自習の参加拡大に取り組んだ。サポート・ティーチャー制度の継続と利用者数の正確な把握について今後検討する必要がある。

【評価】 C

7 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に取り組む。

- ・「TOKYOACTIVE PLAN for students」(第4次推進計画)に基づく生徒の体力向上に努めた。
- ・情報公開と説明責任および指導と評価の一体化に基づき、多様な業過要素と適正な評価法に則した成績処理を行った。
- ・各授業と行事にふさわしいドレスコードと「美しい言葉」を大切にされた指導に取り組んだ。

【評価】 B

II 進路指導

1 1学年時より3年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かに行う。

- ・前年度には進路指導全体計画を作成し、「進路の手引き」を活用し、学習のポイントや入試に関わる各種説明会を実施した。
- ・外部機関と協力し進路講演会等、様々な進路行事を実施し、生徒の進路に対する意識を啓発した。
- ・進路部と学年の組織的な取り組みを推進した。

【評価】 B

【評価】 B

2 長期休業日や土曜授業日午後に講習・補習・教養講座を全校体制で実施する。

- ・保護者の80%以上が土曜授業・講習・補習が必要と考えており、生徒も70%以上その必要を認めていて、ニーズは高いと言える。補習・講習への参加傾向として3学年生徒が圧倒的に高い参加率であり、1・2学年での意識を高めることが課題である。

【評価】 B

3 第一志望を諦めない進学意識の高揚を図る。

- ・1年生は都内国公私立大学を班別自由行動で訪問、2学年は大学模擬授業体験を7月に実施し、夏季休業前の意識啓発を推進し、休業中の学習意欲の向上へとつないだ。
- ・3学年は11月に25大学を招き、出願対策講座を開催した。
 - ・受験シーズンに入り欠席が増える生徒がある。「授業で勝負」をより浸透させるため、授業改善を図り、魅力ある授業とするため、学年・教科が協力して生徒の指導に当たることが課題である。

【評価】 B

4 大学入試に向けた特別時間割等の取組を行う。

- ・3学年は大学入試直前期に効率的に学習できる環境を整えるため、特別時間割を編成した。
- ・2学年の難関大学等を目指す生徒を対象とした日帰り2日実施のスタディ・キャンプを開催した。参加した生徒は充実した2日間を過ごし、「受験0学期」という意識をもつことができた。今後は参加者の拡大を検討課題である。

【評価】 C

5 毎学期の進路希望調査・模擬試験の計画実施・ネットによる情報収集・GTECとTGGの活用。

- ・進路志望調査結果とファイナシステム等による模試結果分析を活用した個別・二者・三者の面談を実施し、生徒一人一人が主体的に進路指導収集するよう求めた。
- ・大学入試改革等への正しい理解が深められるよう、2学年対象の予備校講師による進路講演会を開催した。
- ・3年生6月と8月にGTEC検定版を校内実施した。
- ・11月に1年生が「東京英語村」TGG(Tokyo Global Gateway)を訪問した。

・3年生6月と9月に推薦及び総合型選抜説明会を、7月に小論文説明会を開催した。 【評価】 B

6 必要な進路情報を適時発信し、啓発と情報共有を図る。

- ・進路部による内容豊かな進路だよりを作成した。
- ・卒業生による合格体験報告会や、大学・専門学校を承知しての進路別ガイダンスを実施した。
- ・学年ラウンジへの掲示や、生徒有志を巻き込んだ合格者速報の掲示により意識向上を図った。
- ・過去問の電子化と検索システムの整備は検討課題である。

【評価】 B

Ⅲ 生活指導

1 命と健康・安全を大切にし、基本的な生活習慣の確立に向けた指導を重点的に行う。

- ・集会やホームルームを活用し、自立心や公共心、規範意識を育成し、登下校マナー向上に努めた。
- ・校門、昇降口での指導や集会やホームルームを通して、自ら身だしなみを整える重要性を身に付けられるよう取り組んだ。どの学年も60%以上の生徒が校則を遵守するのに肯定的な意見を持っている。課題は回答した保護者の半数以上が校則の遵守に肯定的でないということである。

今後より一層、自主的な身だしなみに関する意識を高めてゆくとともに、保護者にも校則についての理解を求めていくことが課題である。 【評価】 B

2 関係諸機関と連携し、安心安全な学校生活が送れるよう、教育環境を整備する。

- ・日頃から挨拶や丁寧な対応を身に付け、本校への理解と共感が得られるまでには、もう一步である。
- ・「学校いじめ対策委員会」における教職員の役割・責任を明確にし、機動的かつ組織的対応をした。
- ・感染症対策を徹底し、昼休みに巡回して黙食と換気ができているかを確認した。
- ・「都立高校生活指導指針」に基づく系統的・計画的指導に努め、品位ある態度・挨拶の励行を求めた。

【評価】 B

3 生徒が安心して学校生活に取り組めるよう、質の高い教育環境を整える。

- ・「学校いじめ対策委員会」を設置し、小さいいじめの芽も逃さない取り組みを進めた。委員会の招集から、学年全体と生徒部との情報共有の体制を整え、ケースに応じた対応を行った。
- ・ユースソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと学年、生徒部、管理職の連携を推進した。
- ・「校内巡回マニュアル」に基づいた巡回当番を時間割に組み込み、不審者の侵入や、盗難防止を図っている。
- ・セーフティ教室、消防署協力による防災講話や生徒配布文書、学年集会での講話を通して、薬物乱用防止や交通安全、防災意識の向上を図った。

【評価】 B

Ⅳ 特別活動・部活動

1 学校行事を通じて、東大和南生としての一体感と誇りを持たせ、学校生活を充実、発展させる。

- ・感染症対策を徹底して、合唱コンクール、楠翔祭（文化祭と体育祭）の三大行事について3学年そろって実施した。部合宿（吹奏楽部の夏季合宿、男子バスケットボール部の春季合宿）も実施できた。

【評価】 B

2 部活動を通じてルールを順守する態度を身に付けさせ、目標に向かって協力し努力する態度を身に付けさせる。

- ・チアリーディング部が学校周辺の清掃活動を行い、東大和市役所から表彰された。
- ・下校時刻の遵守についてはおおむね良好である。
- ・次年度に向け、「活動方針」を設定した。
- ・部活動加入率は94.5%と、コロナ禍以前にもどり、良好となった。
- ・各大会で上位10%入りを目指し、各部が成果を上げた。

水泳部 関東大会出場 インターハイ出場

【評価】 B

3 第40期生以降の海外修学旅行催行に向け、国際交流学習・異文化理解学習の充実を図った。

- ・12月に日本留学中の大学生を本校へ招き、交流活動を辞した。
- ・次年度以降オンラインで台湾の高校生と交流活動を行う計画を立てた。
- ・3月に留学制度の講話を実施した。

【評価】 A

V 安全保持と環境美化

1 関係機関や地域の協力を得て、防災教育を推進する。

- ・ 防災訓練の実施を通じて、自助・共助の精神を育み、危険を予知し回避する能力を伸長した。

【評価】 B

2 保健衛生管理の徹底を図る。

- ・ 学校保健委員会により学校保健計画を立案し、定期健康診断を適正に実施した。
- ・ アレルギー疾患や怪我などの緊急時の連絡体制を確立し、教職員に周知し連携を図った。
- ・ 養護教諭が中心となって熱中症対策や応急処置について指導を行い、部活動の安全な実施に繋がった。
- ・ 毎月の保健だよりや、大型掲示物を作成し生徒の健康推進を図った。
- ・ ゴミ分別や節電、節水の励行、環境問題に配慮した生活習慣の確立に努めた。
- ・ 特別支援教育コーディネーターと連携して資料研究を行い、特別支援教育への理解を深めた。

【評価】 B

3 生涯を通じてスポーツを楽しむ態度を育て、生徒の体力向上に向けた取り組みを実施する。

- ・ 体力テストを実施し、生徒の体力や運動能力に応じた体育活動へ反映させた。
- ・ 感染症対策を徹底しながら、水泳の授業を実施して生徒の体力向上を図った。
- ・ 球技大会を実施し、体力維持と学級や学年の懇親を図った。

【評価】 B

VI 広報活動の充実

1 視覚効果の大きいスクールガイドを作成し、ミナミの魅力を伝える、

- ・ 写真やデザインを一層工夫する必要に迫られている。
- ・ インタビューボードをさらに一層効果的に使用していくことが課題である。

【評価】 B

2 ホームページを一新した。

- ・ 即時性を上げるための工夫を重ねたが、部活動紹介についてはなお多くの時間を要している。
- ・ 学校紹介用動画の HP 掲載は試行の段階である。
- ・ 学校紹介用動画を 1 学期中に最新のものに更新する必要がある。

【評価】 B

3 学校説明会や授業公開を活用し、中学生に東大和南高校の魅力を知ってもらう。

- ・ 5月 民間教育事業主催の都立高校個別説明会（本校ブース参加者 175 名）
- ・ 9月 民間教育事業者主催スクールバンクフェスタ@羽村（本校ブース参加者 35 名）
- ・ 10月 民間教育事業者主催進学フェア（本校ブース参加者 105 名）
- ・ 8月 中学生「夏季学校見学」受け入れ（総計 2224 名来校、1 回 50 組として 1 日 4 回 100 名受け入れ）
- ・ 11月 都立高校合同説明会 127 名受け入れ、別にオンライン 7 組
- ・ 10月第 1 回学校説明会 360 名来校
- ・ 11月第 2 回学校説明会 300 名前来た校、同月 第 3 回学校説明会 220 名

【評価】 B

4 相応しい入学選抜方法を検討する。

- ・ 推薦入試における作文問題の検討委員会を 5 回実施し、本校の求める生徒像に適った問題を作成した。
- ・ 推薦入試の応募倍率は 男子が 4.04 倍、女子 2.73 倍（特に女子応募者は伸び悩んだ）
- ・ 一次学力の応募倍率は 男子が 1.59 倍、女子 1.11 倍（推薦と同様に女子応募者が少なかった）
- ・ 本校の部活動への関心は高く、スポーツ特別推薦を実施しているが、今後校内の指導体制を含め実施部活動についても検討を重ねる必要がある。
- ・ 推薦選抜、一次学力検査の何れも適正な組織的取り組みについて検討課題がある。

【評価】 B

VII 組織的な学校運営（校長のリーダーシップ・副校長のマネジメント・経営企画室の行政指導）

1 ライフワーク・バランスの実現に向け、効率的業務遂行に努める。

- ・ 本年度も業務縮減、ペーパーレスの取り組みとして、全ての職員会議をペーパーレスで実施した。
- ・ 副校長補佐マネジメント支援員の配置により、副校長業務の円滑な処理に資するところが大きかった。ただし令和 5 年度は学校経営マネジメント校への指定がなかったため、支援員は配置されない。

・介護や子育てに係る休暇・休業はじめ業務をいかに組織的に円滑に運営するかについて、教職員の相互理解をいかに深めるか一層の工夫を要する。

・在校時間定時外 80 時間超の教員については、産業医による面談を実施、改善を図った。
【評価】 B

2 公文書の適正な管理を実施する。

・電子起案を推進し、個人情報や取り扱いに注意を要する案件以外は概ね電子起案が浸透した。
・文書管理については職員室内の指定した書庫への施錠と、経営企画室での耐火金庫及び書庫等への施錠により適正に管理している。
【評価】 B

3 職層ごとの役割を明確にして、学校経営参画意識を高める。

・自己申告書に基づいた面接の中で、職層に応じた役割によって各自の取り組み目標を明確にし、学校経営参画意識を高めている。
【評価】 B

4 教職員の服務に関する意識を向上させ、服務事故の根絶を目指す。

・校長を講師とした服務事故防止、体罰防止の研修を実施した。
・週休日の変更等のサービスの管理は経営企画室とも連携を取り、ルールを徹底した。
・体罰等の実態調査では、指導の範囲内ではあっても気になる点については聞取って助言を行った。
【評価】 B

5 予算執行状況の管理と有効活用する。

・予算の進捗状況を四半期ごとに確認し、未執行业務の計画変更や契約落差金の補正予算財源化などに取り組み、予算の有効活用ができています。
【評価】 B

6 授業料徴収事務を適切に実施する。

・就学支援金制度について、分かりやすい書類の説明と派遣社員の導入による迅速な処理を推進した。
認定者数 558 名/832 名中 (約 7 割)
・給付型奨学金制度について対象となる教育活動の精査に努め、分かりやすい書類の説明を推進した。
認定者数 81 名/834 名中 (約 1 割)
【評価】 B

7 事務の継続性及び効率性を実現していく。

・担当業務の整理・マニュアル化を推進し、異動時の引継ぎをスムーズに実施した。
【評価】 B

8 施設の有効利用を進める。

・定期的な巡回などにより、老朽化による安全上の問題がいくつか発見されたが、学校経営支援センター経営支援室と連携し、早期修繕を図った。一方、造改修要望書で提示されながらも支援センターでの全体調整のため改善が進まない案件もあった。日々、部活動等で利用している為、早急に修繕を希望する。
【評価】 B

Ⅷ 重点目標と数値

		1年度	2年度	3年度	4年度	4年度目標値
1 広報活動を充実させ、募集対策に努める。	夏季見学会来場者数					
		2038名	380名	1080名	2224名	2000名
	学校説明会参加者数					
		1500名	1620名	1950名	1836名	1900名
	入学選抜【推薦に基づく選抜】応募倍率					
		4.00倍	4.3倍	3.1倍	3.4倍	4.0倍
2 中堅上位校としての進学実績を向上させる。	国公立大学（四年制）合格者数					
		5名	10名	10名	14名	10名
	（現役）	4名	6名	10名	12名	6名
	難関私立大学合格者数（早稲田・慶応・上智・東京理科）					
		16名	15名	5名	9名	10名
	（現役）	13名	15名	5名	3名	6名
	私立大学合格者数（学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政）					
		116名	143名	113名	107名	90名
	（現役）	105名	130名	96名	96倍	80名
	大学入学共通テスト出願者数					
	230名	215名	220名	228名	220名	
3 学力向上のため、長期休業中の講習を充実させる。	長期休業日の講習講座数					
		178講座	159講座	150講座	79講座	150講座
	長期休業日の講習受講者数（延べ）					
	4022名	1582名	946名	2677名	1500名	
4 学力向上のため、家庭学習時間を増加させる。	家庭学習時間					
	1年（平日）	52分	62分	76分	58分	60分
	1年（休日）	66分	73分	94分	77分	70分
	2年（平日）	65分	67分	99分	56分	120分
	2年（休日）	83分	86分	114分	71分	130分
5 授業改善に努め、生徒の授業満足度を増加させる。	学校評価項目『4』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは全体として本校の授業に満足していますか。					
	68.2%	74.6%	78.8%	82.5%	83.8%	80.0%
6 肌理細やかな進路指導を実施して、進路指導満足度を向上させる。	学校評価項目『8』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは、本校の進路指導で将来の見通しが持っていますか。					
	62.1%	66.1%	69.5%	70.0%	75.4%	70.0%
7 特別活動を充実させて、生徒の学校満足度を向上させる。	学校評価項目『14』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたは本校の学校行事に関わることで学校生活の充実感を得ていますか。					
	88.6%	89.9%	94.6%	51.0%	87.0%	70.0%
8 部活動を充実させて、生徒の学校満足度を向上させる。	学校評価項目『15』の「A:大変そう思う」「B:そう思う」の合計ポイント					
	あなたにとって、部活動に関わる事が学校生活の充実につながっていますか。					
	79.8%	82.6%	83.0%	85.0%	87.4%	85.0%

